

竹中君...？

だちだっただけにな...

ああ

ヒ

ああ

パ



俺には一人変わった根暗なダチがいる。



コイツの名前は暗井心

第二次成長期を迎えたら、男が女に、女が男になる事があるらしい。



ただそれは本人が本当に望まない限りは起こりえない事らしいのだがこいつは何故か女として成長したようだ。

まあそんな事は  
俺にとっではどうでもいい事なんだ。

やり!!

オレの勝ちー

トメ技...

ム...

コイツは俺にとって少なくともゲーム仲間の  
一人で昔からの大事なダチなのは変らない。

ただ、暗井が女になっても変わらず  
俺はアイツの家で遊ぶと彼女には  
あまりいい顔をされなかったりする

またあつ!

い、いいだろ別に...

俺だって気兼ねなく遊びたい  
時もあるんだ。

それにコイツは根暗な所もあるが、  
人の嫌がる事を一切しない。

暗井ゲームしようぜ〜

う、うん…

じゃ、じゃあ  
僕の部屋で待っててね…

悪く言えば、全肯定マシーンみたいな所がある  
奴なんだが、そういう人間といえるのは  
存外心地よかったんだ…

だからかな…俺は…

ついコイツに愚痴をこぼしちゃった

なあ暗井くセツ○スって  
どんな感じ何だろうな？

ハァ

ドサ

俺さ…アイツと付き合って、もう2年  
なんだけどさ…まだ何も無いっつか…

いや、わるい…

やっぱ今の…

た、竹中君もそいいう事…  
きよ、興味あるん…んだ…

そりゃあ、まあ…  
あるけどさ…

そ、そうなんだ…

だったらさ…



か、体もね…僕もうちゃんと…

お、女の子だから…そ、そういう事…  
で、できるよ…

4  
ッ

アルッ

っ  
!?

やっぱり僕じゃ興奮  
しない…?

はっ!? えっ!  
ちよっ!

僕だってわかってるんだ…

こんな事言っても竹中君が  
困るだけな事も…

けろろろ

僕だって…もろろろ

ハイッ

ちよ、ちよっと、  
くく、暗井っ!!









な、何だよ…  
お前からいい始めた事だぞ…

で、でもそこは…  
き、汚いから…

こんなにトロトロにさせて、  
今さらそんな事気にするかよ…



やっ…そ、そんなに  
こすったら…あっ…

ああ、これが  
女の体なのか…

暖かくて…柔らかくて…

乳首もクリっとしてて  
弾力もあって…

アソコもトロトロにさせて  
正直…めちゃくちゃえろい…





俺が…

俺が…この手でいかせたのか…？

暗井を…

頭ではわかってんだ…  
この先の事をしたら…  
となるかも…

ズ  
ン  
ッ

そんな事暗井も…  
わかってるはずなんだ…



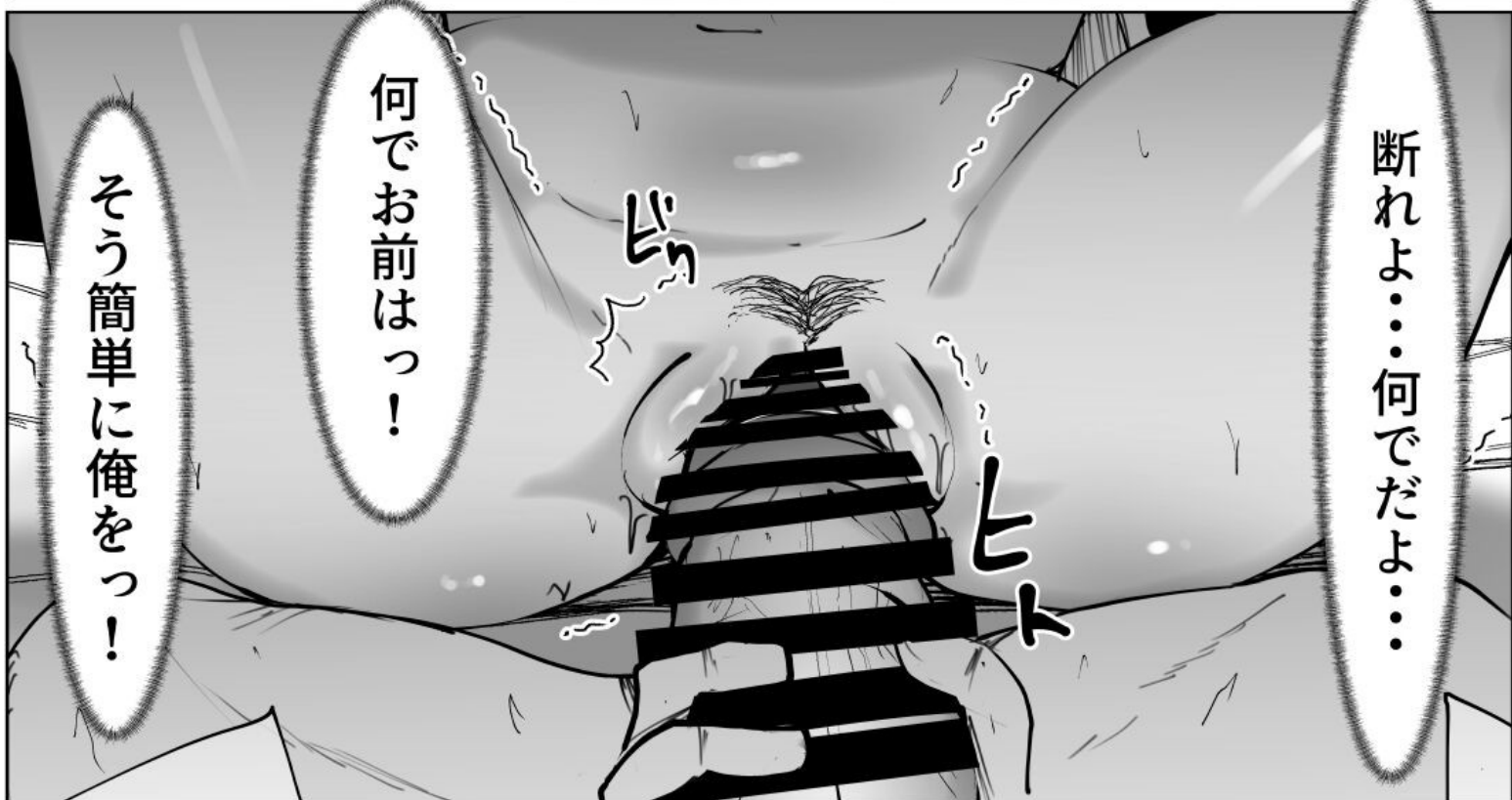
嫌なら嫌って言っても...

暗井...  
挿れるぞ...



っ!!

フッ!!



そう簡単に俺をつ!

何でお前はっ!

断れよ...何でだよ...

ビッ

ヒッ





何だよ何だよそれっ！

あっ竹中君  
はっ、はげしいよ...

いつも俺が欲しい時  
に欲しい言葉かけやがって...

そんなんじゃ俺っ！

我慢できなく  
なっちまうだろっ！





暗井いいいっ!!



出した出しちまった…  
俺は…俺の…  
一時の快樂のためだけに

それでもこいつは…  
嫌がる素振りすらみせない…  
俺はもうお前の事が…  
わかんねえよ…

ただ…

愛おしそうに自分のお腹を眺める  
暗井が…

妙に記憶の隅にこびりついて  
離れなくなっていた。



暗井…今…

渡さないから…



あんな行為をした後でも暗井は  
ゲームを誘えば拒む事をしない…  
俺はコイツがわからない…



な…何でもないよ…

不覚にもその笑顔の裏に隠された言葉に  
俺は…ドキリとした…  
そして…俺はもう暗井を一人の女としか  
見れなくなっていた…

おわり